



## 経営理念

日立物流は広く未来をみつめ  
人と自然を大切にし  
良質なサービスを通じて  
豊かな社会づくりに貢献します



### CONTENTS

経営理念	1	環境	10
ごあいさつ	2	環境マネジメント	11
CSRマネジメント	3	グリーンロジスティクス	12
コーポレートデータ	5	皆様とともに	15
安全	6	株主・投資家とともに	16
安全確保への取り組み	7	お客様とともに	17
技能向上と安全意識の底上げ	9	従業員とともに	19
		地域社会とともに	21

### 日立物流グループCSRレポート編集方針について

**発行目的** 当レポートは、日立物流グループを取り巻くさまざまなステークホルダーの皆様へ、日立物流グループのCSR活動をわかりやすくお伝えすることを目的としております。

**対象期間** 2013年度（原則として2013年4月～2014年3月）の情報を中心に、直近の活動も報告しています。本レポートは年次報告として発行しています。

**対象組織** 当レポートは、日立物流を中心に日立物流グループ会社（連結対象子会社121社、持分法適用会社10社）を対象としています。

**発行** 2014年6月

**関連レポート** 日立物流の経済性報告については「年次報告書」で情報開示しています。また、Webサイトでは、その他にも安全や環境に関する情報を公開しています。  
<http://www.hitachi-hb.co.jp/>

## ■ごあいさつ

平素より格別なご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

日立物流グループは1950年の創業以来、企業の物流業務をトータルでサポートするB to B事業をコアビジネスとしています。グローバルな物流市場において、事業コンセプト「スマートロジスティクス」の推進により、お客様に最適なソリューションを提供し、誠実かつ透明性の高いCSR経営に努め、企業価値のより一層の向上を目指しています。

生産と消費をつなぐ重要な社会的インフラ機能である物流を担うエキスパートとして、真心のこもったサービスを提供するとともに、常に安全・環境対策に取り組んでいます。

安全対策では、「安全はすべてに優先する」をスローガンに掲げ、安全教育の強化・徹底を図り高品質かつ安全に配慮した物流サービスの推進に努めています。一例では、海外の事業所に安全指導者を派遣し研修を行う「安全キャラバン」を実施するなど、日立物流の「安全文化」を伝道しています。

環境対策では、モーダルシフトやプラットフォーム事業などのグリーンロジスティクスの推進に取り組んでいます。2013年には日本経済新聞社「企業の環境経営度調査」において運輸部門5年連続1位を獲得するなど、当社グループの環境への取り組みに高い評価を得ています。今後も持続可能な社会を目指し、より環境に配慮したサービスを心がけてまいります。

また、物流技術においては2013年にテクニカルセンタを開設し、お客様のニーズに合わせたさまざまな組み合わせの試験をワンストップサービスで提供することで、効率的に検証・改善を図っています。

今後も日立物流グループの総力を結集して「基本と正道」を基にした事業活動を展開し、ステークホルダーの皆様から信頼され、豊かな社会づくりに貢献する企業グループを目指してまいります。

本レポートをご一読のうえ、当社グループのCSR活動をご理解いただき、引き続きご支援・ご鞭撻を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

2014年6月  
代表執行役社長

中谷 康夫



※スマートロジスティクス：高度な物流技術・現場ノウハウと多様なサービスメニューによる安全・安心・グリーン・グローバル・ワンストップな物流サービスです。  
日立物流グループで蓄積したシステム物流（3PL）、重量・機工、フォワーディングを三位一体として提供する総合物流サービスです。





## CSR活動取り組み方針

- ①企業活動としての社会的責任の自覚
- ②事業活動を通じた社会への貢献
- ③情報開示とコミュニケーション
- ④企業倫理と人権の尊重
- ⑤環境保全活動の推進
- ⑥社会貢献活動の推進
- ⑦働きやすい職場作り
- ⑧ビジネスパートナーとの社会的責任の共有

## コーポレートガバナンス

健全性と透明性の向上とともに、事業環境の変化に俊敏に対応できる経営体制の確立をねらいとして、委員会設置会社形態を採用しています。

これにより、経営監督機能と業務執行機能を分離し、業務執行の決定権限を取締役から執行役に大幅に委譲して、事業再編や戦略投資の迅速な意思決定および実践を可能としました。また、社外取締役を招聘し、外部の客観的な意見を取り入れることにより、取締役会の監督機能を強化し、透明性の高い経営に努めています。

## CSR活動の基盤強化

### 1. コンプライアンス

#### ●コンプライアンスの徹底

法令などを遵守した経営を推進するために、基本方針・コンプライアンスプログラムの策定などコンプライアンス体制を構築し、積極的に遵法教育、啓蒙活動に取り組み、グループ内の意識向上、法令や社内規則の遵守・企業倫理などの徹底に努めています。

#### ●社内通報制度

社内での違法行為や不適切な行動防止に向け、社内通報制度を設け、グループ全体で早期発見と是正を図っています。

### 2. 内部統制

「インターナル・コントロール委員会」を設置し、財務報告に係る内部統制の文書化と有効性評価を、グループ全体で実施しております。金融商品取引法に定める財務報告に係る内部統制報告制度を遵守することで、さらなる財務報告の信頼性の確保に努めています。

### 3. 情報セキュリティ

#### ●情報セキュリティへの取り組み

お客様からお預かりしている業務情報や個人情報およびグループ内のさまざまな情報資産を保護するために、情報セキュリティ施策に基づき、グループ全体で、セキュリティレベルの維持・向上に取り組んでいます。

特に、近年のセキュリティに関する脅威の高まりに対応し、従来からの従業員教育のほか、事例に基づく実践的な訓練を通して、従業員一人ひとりの情報セキュリティ意識の高揚を図っています。

#### ●第三者認証の取得・維持活動

ステークホルダーの皆様には個人情報・機密情報面からも安全・安心を提供するために、ISO27001\*（情報セキュリティマネジメントシステム）ならびにプライバシーマーク\*の第三者認証を取得・維持しています。

なお、プライバシーマークは2013年5月に3回目の更新をしました。

#### 第三者認証の取得状況 (2014年3月現在)

ISO27001*	37部署
プライバシーマーク*	6社



\*ISO27001：情報システムの安全管理体制が一定の基準に達していることを認定する国際標準規格。

\*プライバシーマーク：一般財団法人日本情報経済社会推進協会が、個人情報について適切に取り扱っている事業者を一定の基準で認定し、付与するサービスマーク。

### 4. リスクマネジメント

主に大規模地震、新型インフルエンザを想定したBCP\*を策定し、グループ全体で自然災害などのリスクに備えています。BCPの実効性を高める取り組みとして、2013年度は組織並びに従業員個人の防災対応力の向上を目的とした各種訓練、セミナーを実施しました。

また、主要拠点への衛星携帯電話の配備、安否を迅速に把握するための「安否確認システム」の導入など、ハード面でのBCPの拡充にも取り組んでいます。

\*BCP：Business Continuity Plan  
事業継続計画、大規模災害発生時などにおいても基幹業務を継続、または早期復旧できるようにするための計画。



災害発生時の初動対応訓練（毛布担架による輸送）



災害時のトイレ・衛生対策セミナー（NPO法人日本トイレ研究所）



## 会社概要

(2014年3月31日現在)

- 社名 株式会社 日立物流
- 所在地 〒135-8372 東京都江東区東陽7-2-18  
Tel: 03-5634-0333 (代表)
- 創業 1950年2月
- 資本金 168億200万円
- 連結売上高 6,245億400万円 (2014年3月期)
- グループ総人員 48,843名
- グループ会社数 131社 (国内: 26社、海外: 106社)
- 事業所数 国内 357拠点  
海外 408拠点
- 株主数 6,402名
- グループ車両 トラック\* 4,239台  
保有台数 トレーラ 4,741台  
フォークリフト 5,344台  
その他\* 1,814台

\*トラック: トラック・バンを含む  
\*その他: バス・乗用車などを含む

## 主な事業内容

- 3PL (システム物流) 事業  
[企業の物流業務の包括的受託]  
(物流システム構築、情報管理、在庫管理、受発注管理、流通加工、物流センター運営、工場構内物流作業、輸配送、通関手続、陸上・海上・航空の輸送手段を利用した国際一貫輸送など)
- 一般貨物・重量品・美術品などの輸送・搬入・据付作業
- 工場・事務所などの大型移転作業
- 倉庫業、トランクルームサービス
- 産業廃棄物の収集・運搬業
- 物流コンサルティング業 他

## ネットワーク〈主なグループ会社〉

(2014年4月1日現在)

### 国内会社

東日本日立物流サービス株式会社  
関東日立物流サービス株式会社  
首都圏日立物流サービス株式会社  
南関東日立物流サービス株式会社  
中部日立物流サービス株式会社  
西日本日立物流サービス株式会社  
九州日立物流サービス株式会社  
日立物流ダイレックス株式会社  
日立物流コラボネクト株式会社  
日立物流オリエントロジ株式会社  
日立物流ファインネクト株式会社  
株式会社バンテック  
株式会社日立物流バンテックフォワードイング  
日新運輸株式会社  
株式会社プロジェクトカーゴ ジャパン  
日立物流ソフトウェア株式会社  
株式会社日立オートサービス  
株式会社日立トラベルビューロー

### 海外会社

Hitachi Transport System (America), Ltd.  
J.P. Holding Company, Inc.  
Hitachi Sistema de Transporte Mexico, S. A .de C.V.  
James J.Boyle & Co.  
Hitachi Transport System (Europe) B.V.  
ESA s.r.o.  
Mars Logistics Group Inc.  
VANTEC HTS Logistics (RUS) LLC  
Hitachi Transport System (Asia) Pte. Ltd.  
Hitachi Transport System (Malaysia) Sdn. Bhd.  
Hitachi Transport System (Thailand), Ltd.  
Eternity Grand Logistics Public Co., Ltd.  
PT Berdiri Matahari Logistik  
PT Hitachi Trasport System Indonesia  
Hitachi Transport System (Vietnam) Company Limited  
Nisshin (MYANMAR) Co., Ltd.  
Flyjac Logistics Pvt. Ltd.  
日立物流(中国)有限公司  
日立物流萬特可(香港)有限公司  
CDS Freight Holding Ltd.  
台湾日立物流股份有限公司  
株式会社日立物流 (コリア)  
Hitachi Transport System (Australia) Pty. Ltd.

# 安全

「安全はすべてに優先する」  
それが、私たちの考え方です。



## 安全指導の継続推進

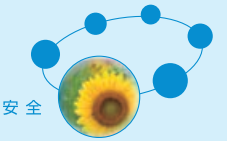


日立物流コラボネクト株式会社  
安全品質環境本部安全グループ  
加藤 友康

約半年間の安全指導者養成研修を受講し、さまざまなことを学びました。技術や知識の習得だけでなく、現場の作業者の気持ちを理解し、心に届く教え方、如何に実践していくかを自ら考える有意義なものでした。現在は出来るだけ簡単な言葉で、誰にでもわかり易く、事故発生ゼロにつながる指導を心がけています。







## 日立物流グループ全社安全朝礼

事故・災害を撲滅するため、4月と10月に全社で「安全朝礼」を実施し、経営トップの安全メッセージを従業員全員に伝えています。



## 日立物流グループ安全の日

過去に起きた事故を再発させないため、さらに事故にあわれた方々およびそのご家族の気持ちを忘れないために、7月1日を「日立物流グループ安全の日」と制定しています。

## 安全品質向上取り組み方針

全従業員一人ひとりが「安全と健康はすべてに優先する」「物流品質向上による顧客の信頼確保」という理念のもと、下記の方針に基づいた活動に取り組んでいます。

### 2014年度日立物流グループ安全品質向上取り組み方針

- 安全品質スローガン  
「安全・品質・健康を守る文化の徹底」
- 取り組み事項
  - 全員参加による事故未然防止型安全品質活動の推進
  - 物流品質改善による企業価値向上と顧客の信頼確保
  - 従業員一人ひとりの健康管理への目配り・気配りによる明るく活力ある職場作り

## 5S3定活動・リスクアセスメントの推進

安全品質活動の基本として「5S3定\*活動」の徹底を図っています。また職場巡視の結果やヒヤリハット\*報告をもとに「リスクアセスメント\*」を推進しています。

\*5S3定：5S＝整理・整頓・清掃・清潔・躰  
3定＝定位・定品・定量  
\*ヒヤリハット：重大な災害・事故にいたらないもの、そうなくてもおかしくない、事故寸前の危険な事例。  
\*リスクアセスメント：職場の潜在的な危険性または有害性を見つけ出し、除去、低減して事故を未然に防止するための科学的、体系的な手法。



5S3定 啓蒙ポスター

## 確実な安全確認のために

発声操縦\*と指差呼称\*を実践して、ヒューマンエラーによる事故・災害発生の防止に努めています。



\*発声操縦：道路や交通の状況を、発声しながら車を進めてゆく運転方法。注意力の低下を防ぎ、危険に対する警戒心を高める。主にトラックや業務車両の運転時に実践。  
\*指差呼称：腕・指・目・口の筋肉を動かし確認する手法で、脳の活性レベルを上げることで確認作業を確実にする手段。主にフォークリフトの運転時に実践。

## 現場力強化に向けた研修会の開催

2007年より「現場力強化スマートロジスティクス研修会」を定期的で開催し、グループ内全体で優れた取り組み事例を共有しています。

## 安全衛生情報の共有

### ●「安全品質ニュース」の発行

毎月（日本語・英語・中国語）発行し、事故事例の概要・原因と対策を紹介しています。

### ●「健康ピックス」の発行

従業員の健康向上を目指し、最新の話題、情報の提供や、気軽に実践できる具体的な取り組みなどを紹介しています。

## 社外向け安全啓蒙活動

当社が培ってきた運転指導技術を活かし、日立グループへの安全運転に関する指導を行っているほか、お客様、協力会社などのトラック運転手、業務車両運転手、フォークリフト運転手にいたるまで、ご要望に応じて安全教育を行っています。また、公的団体主催研修などで安全分野の講師としても携わっています。

## 安全品質教育の進化

職場における事故・災害を防止するため、安全品質に関する各人の知識・技能などのレベル向上を図るだけでなく、指導を行う管理者・指導者の指導力向上を推進しています。

### ●現場の管理者の育成

現場における管理者が、各々の職場環境に応じた当社の安全文化を指導できるよう、実践的な方法を通じて教育を行っています。

### ●安全指導者の養成

約半年間の時間をかけて、多種多様な技術・知識を身につけた安全指導者を養成しています。



## ●グローバル安全指導の強化

日立物流の「安全文化」を伝道するため、海外の事業所に安全指導者を派遣し研修を行う「安全キャラバン」を実施しています（受講者：7ヶ国1,000名超）。また、海外の従業員が日本で受講する研修に安全課程のカリキュラムを設定し指導を行っています。



安全キャラバンによるハンドリフトの使用説明 ※日立物流オーストラリアにて

## ●危険体感型安全教育

どこに危険性が潜んでいるかを一人ひとりが実技を通して体感することにより、不安全行為の排除、事故の予防につなげています。



## ●危険予知活動

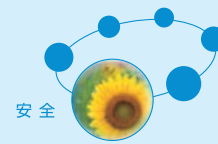
各職場では作業開始前に危険予知活動や作業前ミーティングを行っています。特にトラックドライバーに対しては、ドライブレコーダーに記録されたヒヤリハット画像を用いて危険予知活動を行い、事故防止に努めています。

## ●「事故教訓集」の発行

過去の重大事故を風化させないため、「事故教訓集」を安全教育現場で活用し、事故防止につなげています。



# 技能向上と安全意識の底上げ



## 日立物流グループ トラックドライバー・フォークリフト運転者コンテスト

法令の遵守、運転技能ならびに整備点検技術の向上、安全に対する意識の高揚を目的に、「日立物流グループトラックドライバー・フォークリフト運転者コンテスト」を開催しています。この取り組みは海外にも展開し、築き上げた技術の伝承を図っています。



2013年11月 大航国際貨運\*(中国)実施 フォークリフト運転競技会  
\*大航国際貨運有限公司は、2014年4月に日立物流(中国)有限公司に社名変更しています。

## 社外フォークリフト・トラック大会への出場

毎年、日本一を決める「全国フォークリフト運転競技大会\*」「全国トラックドライバー・コンテスト\*」での優勝を目指し、専門知識の習得・運転技能向上・安全意識高揚を図っています。2013年度は、9月の「全国フォークリフト運転競技大会」で第5位、10月の「全国トラックドライバー・コンテスト」では、4トン部門第2位、11トン部門第4位、トレーラ部門第2位・第5位という成績を収めました。

\*全国フォークリフト運転競技大会：陸上貨物運送事業労働災害防止協会が主催し、安全の確立と実効ある労働災害防止の推進を目的としている。  
\*全国トラックドライバー・コンテスト：(公社)全日本トラック協会が主催し、プロトラックドライバー日本一を競う大会。最優秀選手には内閣総理大臣賞が授与される。

### ●全国フォークリフト運転競技大会



2013年度結果  
1名入賞

●第5位

#### ■入賞者総数(1986~2013年大会)

優勝	第2位	第3位	第4位	第5位	合計
5名	8名	8名	7名	5名	33名

### ●全国トラックドライバー・コンテスト



2013年度結果  
4名入賞

- 4トン部門 第2位
- 11トン部門 第4位
- トレーラ部門 第2位/第5位

#### ■入賞者総数(1969~2013年大会)

優勝	第2位	第3位	第4位	第5位	合計
34名*	27名	25名	21名	21名	128名

(内12名が内閣総理大臣賞受賞)

# 環境

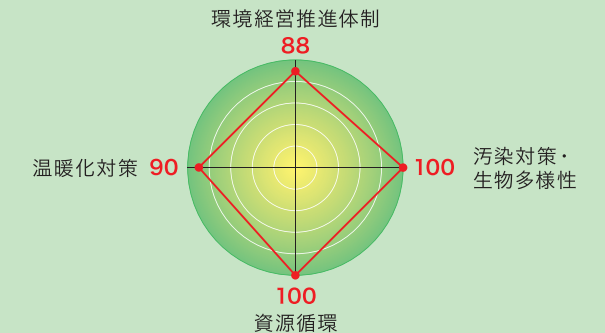
人と地球の未来のために、  
できることのすべてを。



## 日本経済新聞社 「企業の環境経営度調査」 5年連続 第1位

この調査は、日本経済新聞社により毎年実施され、環境対策と企業経営の両立を評価し、環境経営への取り組みが優れている企業をランキングするものです。2013年度も運輸部門で第1位の評価を受け、5年連続1位となっています。今後は環境管理体制、温暖化対策などを強化し、さらに高い評価を目指します。

### 日本経済新聞社「企業の環境経営度調査」評価点



※各事項について満点が異なるため、参加企業の最高点を100、最低点を10として評価点が付けられる。  
赤字は日立物流グループの評価点。



## 環境管理の充実

### ●環境負荷実績データWeb管理の推進

2012年10月からWeb管理システム（イントラネット）での環境負荷調査を毎月実施しています。本調査では、毎月のデータ入力と実績把握によりグループ内でのデータの共有化を図るとともに、課題の早期是正に取り組み、環境負荷管理の効率化を図っています。

2013年度は、前年度実績を超過（電気床面積原単位5%、水10%）した拠点の点検・対策を必須として、改善を促す運用を開始しました。今後は、地球温暖化防止、資源循環などの環境対策のツールとして、一層の有効活用を図ります。

## 地球温暖化防止・節電

### ●省エネ設備の導入

環境配慮型物流センターの建設や省エネ設備導入を推進し、CO<sub>2</sub>排出量抑制に取り組んでいます。

### ●バンテック九州物流センターLED照明の全面導入

第六物流センター・第七物流センター（合計床面積44,000m<sup>2</sup>）では全面的にLED照明を採用し、従来の蛍光灯に比較して、年125トン（-20%）のCO<sub>2</sub>排出量を抑制しました。



### ●太陽光発電設備設置

新富士物流センター（2013年10月稼働）では太陽光発電設備（33.6kW）を設置し、年36トン（-7%）のCO<sub>2</sub>排出量を抑制しています。



### ●「グリーンカーテン活動」の推進

夏季の節電・省エネ対策の一環としてグループ全体で「グリーンカーテン活動\*」を展開しています。

\*グリーンカーテン活動：ゴーヤなどのつる性植物を建物の窓や壁に沿って育成することにより、葉の蒸散作用と太陽光の遮断効果から、室温を3～5℃程度低減させることができる取り組み。

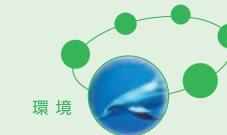
## 海外環境管理の推進

### ●海外環境責任者会議の実施

海外4極（北米、欧州、中国、アジア）の責任者が参加する「海外環境責任者会議」をTV会議にて年2回開催しています。当会議にて課題の討議、情報の共有化などを図り、海外での水準向上に取り組んでいます。

### ●実態調査の継続的实施

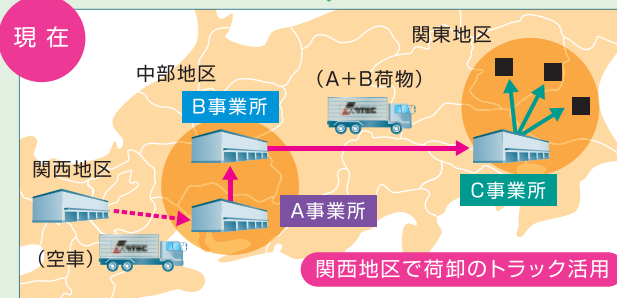
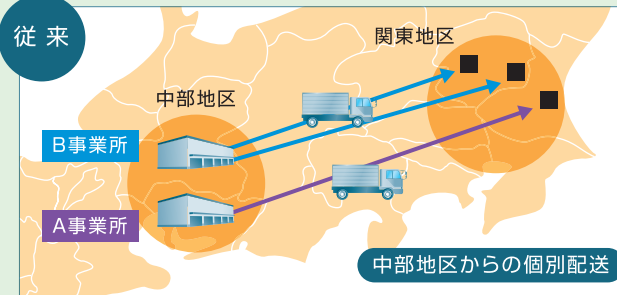
環境管理の実態把握と改善を目的に、海外環境実態調査を実施しています。今後も推進、継続的改善に努めます。



## 共同物流の推進

### ●自動車部品の返路車活用による共同物流

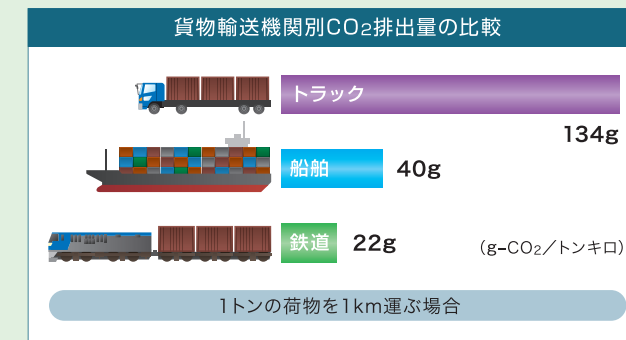
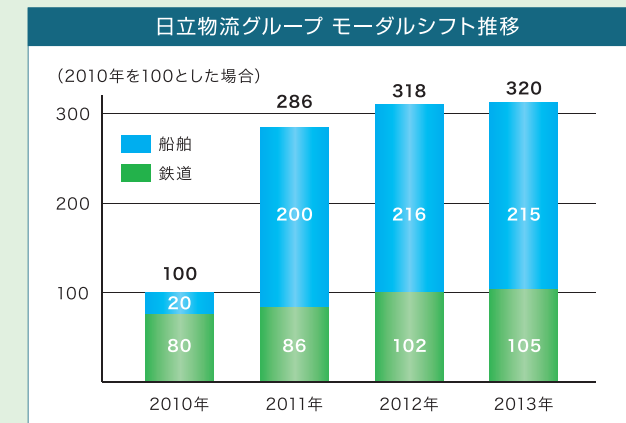
従来、中部地区から関東地区のお客様に個別に荷物を配送していましたが、関西地区で自動車部品を荷卸した空トラックを活用し、中部地区から関東地区にまとめて荷物を運ぶ共同配送を実施しました。これにより、同一地域への配送効率の向上と環境負荷低減を図っています。



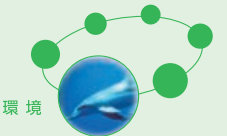
## モーダルシフトの拡充

モーダルシフトは環境負荷低減施策の大きな柱であり、船舶・鉄道輸送は長距離輸送において重要なツールです。日立物流グループでは、コンテナ輸送やRORO船\*輸送の導入促進を積極的に行い、さらなるモーダルシフトの拡充を図ってまいります。

\*RORO船：Roll on roll off ship/船首、船尾または船側面に開口部を設け、ランウェイを渡して船倉内にトレーラーなどが入り込める構造の船。



(2011年度環境省、国土交通省資料より)

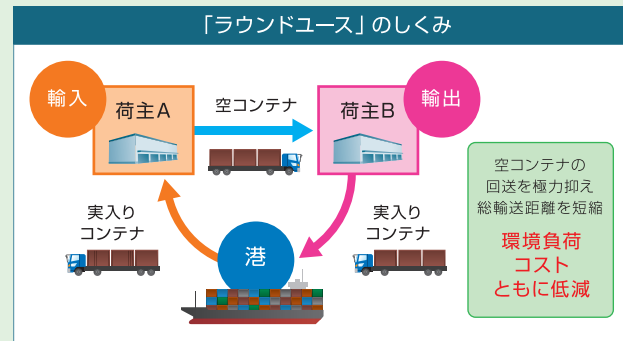


## 海上コンテナの有効活用

### ●「ラウンドユース」の拡充

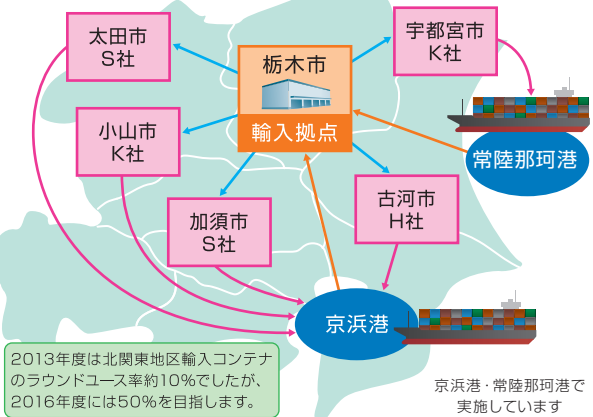
「ラウンドユース\*」は、輸出・輸入の荷主にとって今や当たり前前の輸送作業となりつつあります。総輸送距離短縮によるコスト削減と環境負荷低減に大きく貢献することが出来るため、現在では複数荷主のマッチングサービスを展開しています。

\*ラウンドユース：輸入荷主が使用した空コンテナを輸出荷主が使用し、空コンテナの回送を極力減らした輸送方法。



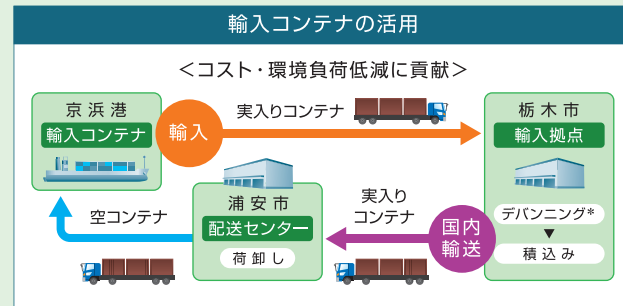
### 「複数荷主とマッチングサービス」事例

<栃木市の輸入拠点を中心に、近隣他荷主と積極的に推進中>



### ●輸入コンテナの国内転用の拡大

2013年6月より、栃木市へ運ばれた輸入コンテナを活用し、浦安市までの国内輸送（国内転用）を行い、輸送の効率化を図っています。



\*デバンニング：コンテナから荷物を取り出す作業



国内転用輸入コンテナ

### ●45ft国際海上コンテナの運用

2012年9月の実証実験後、2013年3月に「宮崎45ftコンテナ物流特区」が内閣府より認定され、実運用がスタートしました。45ftコンテナは40ftコンテナと比べ積載率が13%増え、環境負荷低減に貢献しています。

## 地球温暖化防止・廃棄物の削減

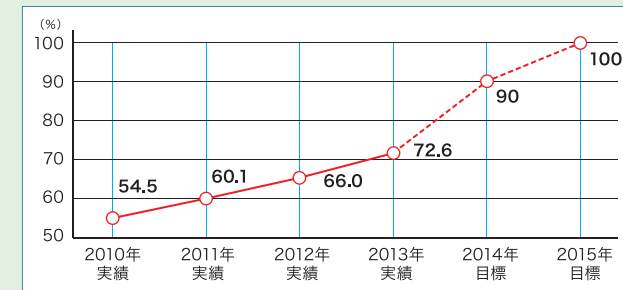
### ●エコカーへの代替促進とエコドライブの推進

日立物流グループでは、低燃費・低公害な環境対応車（エコカー）への代替と、エコドライブによる省燃費運転を推進しています。また、輸送協力会社に対しても同様の協力要請をしています。



エコカー（低燃費・低排出ガス車）導入

### ●日立物流グループ車両のエコカー保有率（国内）



※対象車両は事業用と自家用の合計。  
※エコカー種類：ハイブリッド車、天然ガス車、電気自動車、LPG車、国が認定している低燃費車（燃費基準達成車）・低排出ガス車、バイオ燃料車。

### ●第三者認証取得への取り組み

日立物流グループでは第三者認証としてグリーン経営認証の取得を進めています。日立営業部重量・輸送営業所、中国第一営業部笠戸営業所では2003年から10年間継続して認証登録し、公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団より「グリーン経営認証永年表彰」を受けました。引き続きグリーン経営に取り組み、環境保全に努めて地球温暖化防止を図ってまいります。



グリーン経営認証永年表彰

### ●廃棄物の再資源化

資源循環促進のため、事務所や物流センターから排出される大量の段ボール・包装用プラスチックフィルムなどを圧縮機を用いて圧縮し、有価売却を行っています。また、紙くず・プラスチック・木くずなどは処理業者を選定しリサイクルしています。

### ●2013年度廃棄物発生量：

31,800トン（10トントラック3,180台分）

### ●再資源化率：98.3%



段ボール圧縮機



# 皆様とともに

一人ひとりの視点に立った、  
コミュニケーションを大切に。

Partnership



株主・投資家と  
ともに



お客様と  
ともに



従業員と  
ともに



地域社会と  
ともに

# 株主・投資家とともに



株主・投資家の皆様に向けたさまざまな形での情報開示を通じて、双方向コミュニケーションの充実を図り、株主・投資家の視点に立った情報開示の徹底に努めています。

## 情報の開示

Webサイト内に「IR情報」コーナーを設け、投資に関わる情報を迅速かつ正確に開示するように努めています。

### 【掲載内容】

- 決算短信
- 決算説明会資料
- 株価情報
- 日立物流グループの  
中期経営計画



日立物流ホームページ  
IRトップページ

## 株主総会の開催

2013年6月26日、第54期定時株主総会を本社内にて開催しました。開催日に関しては、より多くの株主の皆様にご出席いただけるよう、株主総会の集中日を回避した開催日設定を基本としております。

## 株主・投資家の皆様とのコミュニケーション

株主・投資家の皆様に向け「アニュアルレポート」や「年次報告書」を発行しています。

また、証券アナリスト・機関投資家からの個別取材や、機関投資家とのスモールミーティングなどでの対話を通じて、コミュニケーションの充実にも努めています。

### 【2013年度の活動実績】

- 決算説明会（2回）
- 「年次報告書」「第2四半期報告書」の発行（各1回）
- 「アニュアルレポート」の発行（1回）



決算説明会



年次報告書



アニュアルレポート





## 物流技術のテクニカルセンタを開設

旧試験室（試験機含む）の老朽化や試験内容の高度化に対応すべく、千葉県松戸市（当社グループ研修施設内）に「テクニカルセンタ」を開設しました。試験スペースを従来の約3倍となる155坪に拡張し試験能力の向上を図ることで、外部委託していた大型品の試験が可能となりました。

また、多彩な試験機を取り揃えており、お客様のニーズに合わせたさまざまな組み合わせの試験をワンストップサービスで提供することで、効率的に検証・改善を図っています。

●名称：テクニカルセンタ

●所在地：千葉県松戸市八ヶ崎緑町34  
（当社グループ研修施設内）

●稼働時期：2013年9月

●試験可能寸法：約 縦1.5m×横1.5m×高2.0m

●試験可能質量：約500kg



日立物流グループは、海外の輸送環境と包装材の特性調査などにも積極的に対応するとともに、今後も、安全、安心、環境負荷の低い包装・輸送の提案に努め、お客様に最適なロジスティクスソリューションを提供してまいります。

## 主な取り組み

- 各試験機を活用し定量的な評価を行い、最適な包装設計を通じて、コスト低減を図ります。
- 既存の包装・物流品質をさらに良くするための検証試験を行い、品質向上を図ります。
- 海外の包装材の特性調査、物流環境の再現を行い、お客様に差異化技術の提供を推進します。



実運用状況



## マレーシア物流センターの立ち上げ

日立物流と日立物流マレーシアは、昨年マレーシアのセランゴール州パンギ地区に、日立物流グループにとってアジア地区では最大規模となる「ロジスティクスセンター」の開設を共同で行いました。

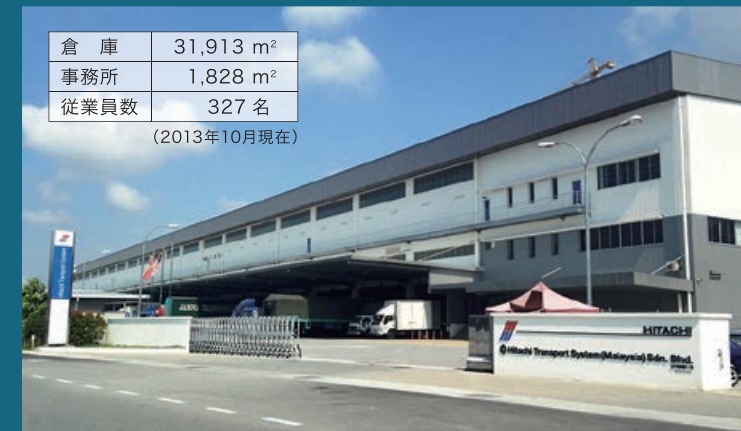
1年前からお客様を含めたプロジェクトチームを結成し、全体の運営・庫内仕様・システム設計・安全品質などについて分科会を開催するなど詳細設計や準備を行いました。主な役割分担としては、企画・システム設計・庫内レイアウトは日立物流（日本）、庫内作業の設計・安全品質は日立物流

（マレーシア）が担当しました。多民族国家であるマレーシアでは、宗教・文化・生活習慣が多彩であるため、ナショナルスタッフと現地作業員の教育は特にきめ細かく行いました。地道な努力も実を結び、垂直立ち上げを行い、現地での業務も滞ることなく順調に運営することができました。また、作業品質も安定しており、お客様からも高い評価をいただきました。2014年第2弾のセンター運営立ち上げには、同様に垂直立ち上げ・早期安定運営を目指しさらなるサービスの向上に努めてまいります。

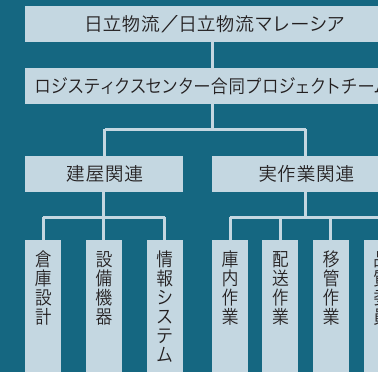
## 日立物流マレーシア パンギ物流センター

倉庫	31,913 m <sup>2</sup>
事務所	1,828 m <sup>2</sup>
従業員数	327名

(2013年10月現在)



## <プロジェクト推進体制>



## <ナショナルスタッフ教育風景>







## <人財育成>

### 人権について

グローバル化が進展するなか、多様な価値観や異なる文化をお互いに認め合い、共存共栄の意義を理解し認識を深めることが大変重要になっています。各種会議や階層別研修、全社員を対象にeラーニング\*の実施など、人権の正しい知識を学ぶ場を設け、一人ひとりの人権意識の高揚を図っています。

\*eラーニング (e-learning) : インターネットを利用した学習形態

### ロジスティクス人財の育成

「HBカレッジ\*」において、3PL (システム物流)、重量物搬入・据付作業、現場管理・運営、安全品質向上などに関する研修を実施し、物流企業の従業員としての知識・技能の習得に努めています。

\*HBカレッジ: 日立物流グループにおいて必要な物流事業関連の知識・技能習得のためのカリキュラムを単科大学になぞらえて体系化したもの。

HBカレッジ開講・受講状況				
	2012年度		2013年度	
	講座数	受講者数 (延べ)	講座数	受講者数 (延べ)
一般コース (必修)	18講座	997名	19講座	1,095名
専門コース (選択)	29講座	442名	32講座	379名
社内ゼミ (選択他)	22講座	1,449名	27講座	1,784名
計	69講座	2,888名	78講座	3,258名

### グローバル人財の採用・育成

#### ● 外国籍人財の採用

グローバルに拡大する事業に柔軟に対応するため、外国籍者の採用を積極的に行い、社内人財の多様化を進めています。

外国籍者採用数				
2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
1名	1名	8名	7名	6名

#### ● 海外業務研修制度

ワールドワイドに活躍できる人財の育成を目的に1988年度より継続し、現在では派遣者180名を超えています。海外で1年間の研修を通じ、語学力の習得にとどまらず、現地の文化を深く理解するとともに、日本以外でも通用するビジネス感覚を身につけてきております。2013年度からは年間派遣者数を倍増し、人財のグローバル化を加速しています。

研修生派遣実績				
2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度(予定)
15名	15名	15名	36名	43名

#### ● 海外スタッフの日本国内研修

海外の現地法人で活躍する従業員を選抜し、日本での研修を実施しています。将来の海外拠点リーダー育成を目的とした研修や、物流知識をはじめとする専門知識向上のための研修など、対象者に合わせた効果的な研修を実施しています。その中の研修の一つであるリーダー育成のための「Management Development Program\*」では日本勤務の日本人管理者も選抜し、意識の改革とグローバルネットワーク構築に資することもねらいとしています。

\*Management Development Program : ナショナルスタッフ管理者育成研修

Management Development Program 受講実績			
2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
12名	11名	15名	19名

(日本人受講者含む)

#### ● 外国人技能実習生の受け入れ

「外国人技能実習制度」は、出入国管理法に基づき、開発途上国の経済発展の担い手を育成する目的に創設された制度です。2013年度にフィリピンから5名の実習生を受け入れ、国際協力の一端を担うと同時に、社内の多様性に対する意識の向上を図っています。



外国人技能実習生の実習

### Interview

#### 日本の職場で働いてみて

株式会社日立物流 技術本部 LE部  
2012年12月入社 国籍: マレーシア  
Nur Arina Balqis Binti Abdul Wahab  
(ヌル アリナ バルクス ビンティ アブドゥル ワハブ)



現在はロジスティクスエンジニア (以下LE) として新規作業の立ち上げに関わり、物流機器の調整やテストなどを行っています。実際に日本の職場で働いてみて印象的なことは、時間をきちんと守り計画的に仕事を行うということ、計画通りに進まない状況になったときに皆で支えあい仕事を完了させるということです。またLEの仕事は当初想像していたよりも現場との関わりが深く、日本語で分からない言葉が出てきたときなど理解できるまで丁寧に説明してくれます。一日も早くグローバルに活躍できるようにがんばります。

## <ワークライフバランス・ダイバーシティ>

### 健康管理と安全衛生

健康保険組合や産業医との連携を図り、従業員の心と身体への健康保持と増進に向けた活動を実施しています。

#### [主な取り組み]

- 保健指導プログラムの導入
- 総労働時間短縮に向けた取り組み
- 職場環境改善に向けたEAP\*・ストレスコーピング研修\*の導入

\*EAP (Employee Assistance Program) : 個人のストレス状態を調査し、本人へのフィードバックと合わせて職場単位での数値把握を行い、「個人の活性化」と「組織活力の向上」を図るもの。  
\*ストレスコーピング研修: ストレスについて各人が体系的に理解し、ストレスへの気づきや対処法を考え、ストレス耐性を身につけるよう促していく手法。

### ダイバーシティ推進の取り組み

2012年に「ダイバーシティ\*推進センター」が設置されました。少子高齢化による労働力の減少、市場のグローバル化に伴い、女性をはじめ、障がい者、外国籍者、高齢者、非正規雇用の方々など、グループの総合力強化を目指した多様な人財の活躍と職場風土づくりに取り組んでいます。



女性管理職研修における男性管理職も加えた討議

\*ダイバーシティ: 多様性・労働における人財の多様さの概念

#### [主な取り組み]

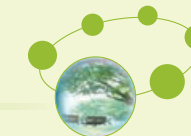
- 女性社員の活躍に向けた数値目標

女性管理職比率の推移と目標		
2008年度	2013年度	2020年度目標
0.2%	1.8%	10.0%





# 地域社会とともに



## <ワークライフバランス・ダイバーシティ>

- 女性・階層別研修でのダイバーシティ、ワークライフバランス教育
- ダイバーシティネットワークづくりと啓発活動
- 外国籍社員の活躍のための基盤づくり(数値目標の策定)

外国籍社員比率の推移と目標		
2008年度	2013年度	2020年度目標
0.6%	1.2%	3.0%

- 障がい者雇用の推進  
各種支援学校などと連携し、障がい者の雇用に向けたグループ全体での取り組みを継続しています。

障がい者雇用率		2013年6月現在
日立物流グループ	民間企業(参考)*	法定(参考)
2.08%	1.76%	2.00%

\*民間企業実雇用率…厚生労働省発表数値

## ■「働きやすさ」の各指標

産休・育休取得率			
	2010年度	2011年度	2012年度
女性	100.0%	100.0%	100.0%

介護休職・休暇取得者数		
2010年度	2011年度	2012年度
—	1名	3名

新卒者離職率(入社後3年間)		
2008年入社者	2009年入社者	2010年入社者
10.9%	10.7%	5.6%

(当社調査データに基づく)

## 日立物流グループまごころ基金の活動

日立物流グループは、国内グループ会社に参加する従業員と会社が一体となった社会貢献マッチングプログラム「まごころ基金」を通し、交通安全、環境保全、地域貢献・社会福祉の3分野への貢献活動を2008年より継続実施しています。



### ●2013年度の活動

交通安全

- 全国14の自治体などに交通安全紙芝居(全178セット)を寄贈しました。この活動は2008年度より継続し、累計寄贈数は878セットとなりました。
- 全国14の自治体に車椅子(48台)を寄贈しました。2008年度より実施し、累計寄贈台数は138台となりました。
- 日本アイススレッジホッケー協会を継続支援しました。
- フィリピン台風(ハイエン)被災地支援に寄付しました。この寄付は台風により被災した小学校の屋根修復に活用されます。

地域貢献

社会福祉

環境保全

- 2つの環境団体を支援、ならびに「東日本大震災復興に向けた緑の募金」にも寄付しました。

## 日立物流交通安全教室

未来ある子供達を交通事故から守りたいという思いから「日立物流交通安全教室」を実施しています。地域の小学生を対象に、安全指導員が講師をつとめ、トラックの死角や、危険性などを実際にトラックを活用して学んでいただいています。

2013年度	貝の花小学校2年生(松戸市) 根木内小学校2年生(松戸市)
--------	----------------------------------

今後もこの活動を継続し、取り組んでまいります。



## 日立物流フットサル大会開催

千葉県野田市の物流センターに併設しているフットサル場を活用して、地域のフットサル大会を開催しています。毎年、2月～3月に実施し2013年度で8回を数えました。

## その他の活動

### ●海外での活動

日立物流マレーシアでは、首都クアラルンプール郊外にある児童福祉施設に生活物資の寄贈や寄付を実施しました。



### ●エコキャップ推進活動

全国の事業所で、ペットボトルのキャップをワクチンに換えるエコキャップ活動を推進しています。

### ●陸上部による貢献活動

日立物流陸上部は、スポーツを通じて地域の皆様との交流を図っています。2013年度は、活動拠点である千葉県松戸市の小学生に陸上教室を開催、また松戸市制70周年記念ハーフマラソンにゲストランナーで出場するなど、地域の皆様とふれあいました。



新聞紙を利用した正しいランニングフォームの指導



# 株式会社 日立物流

CSR推進本部 〒135-8372 東京都江東区東陽7-2-18 Tel.03-5634-0333(代表)

[www.hitachi-hb.co.jp](http://www.hitachi-hb.co.jp)



## 日立物流グループマークについて

3本のラインは、陸・海・空の3つの輸送モードと提案力・運営力・情報力の3つの力を表し、日立物流グループのグローバルかつ高度なロジスティクスソリューションサービスを示しています。2色はそれぞれ、赤は活力、青は着実を表しています。

